



「一人の人間としてできること」

奈良教職員組合 長嶺 義昭

「長嶺先生、仕事も大事やけど、ごはんの時間は大事にせな、あかんで」今年、担任したクラスの生徒から言われた言葉です。

彼は、クラスの盛り上げ役である一方で、余計な一言を言ってしまい、友だちから苦言を呈されることがありました。しかし、人と関わるのが好きで、人一倍周りを見ている生徒です。僕は、中学1・2年と、彼のいる学年に所属しておらず、いきなり中3で、学年担当、担任をすることになりました。

始業式。体育館での担任発表が終わり（長嶺ってどんな人なんやろ、って思ってるやろなあ）と教室に向かっていると、途中で僕に追いついた彼が「長嶺先生、よろしく！」と満開の笑顔で声をかけてくれました。その声に体が熱くなりました。

6月のある日、給食の時間に、教室で次の時間の人権学習で使うプリントを切り貼りしていました。すると、彼が「先生、体調悪いの？ 給食用意してないやん」と眉間にしわを寄せて、心配そうな声で話しかけてきました。僕は「しんどくないよ。次の時間で使うものを作ってるから、今日のご飯食べんとくわ！」と言

ました。それを聴いて彼は、「長嶺先生、仕事も大事やけど、ごはんの時間は大事にせな、あかんで。それって人間らしくないやん。忙しいのはわかるけどな」と言いました。はっとして「ありがとう。気をつけるわな」としか言えませんでした。

子どもたちには「世の中も、大人も捨てたもんじゃない」と、人のあたたかさを実感し、社会への希望をもって卒業して行ってほしいと思って今まで関わってきました。それを伝えるために「教員としてよりも、一人の人間としての必死さ・一生懸命さを見せること」「どんなときも人間として誠実に関わること」を大事にしてきました。けれど、僕がそんなことを身をもって伝えなくても、彼はもうすでに、家族、友だち、今まで出会ってきた人との関わりの中で「人を大切にすること」「自分を大切にすること」という、幸せに生きていくために大切なことを知っていました。

そんな彼とこれからもなかまでありたいし、彼が壁にぶつかったときに一緒に超えてくれるなかまを育てていきたいと思っています。